

踏まね踏まれても生き返る

NO.000-2 テスト版02 2024.4.25

いたばし雑草通信

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。PDFでお送りします。

ルリマルノミハムシ ニリンソウを食べる虫



赤塚公園のニリンソウ保護活動を始めてからしばらくして、ニリンソウ群落の増え方には2通りあることに気が付きました。

ひとつは根茎が発達して枝分かれして群落が広がっていくのと、もうひとつは群落から離れた場所にぽつんと出現する増え方。斜面の上部に向かって増えることがあるので、落ちた種子が自然に転がって広がっているわけでもありません。

そのころ、ある書物で「ニリンソウが発するフェロモンに惹かれてやって来る虫がいて、それが種子を運んでいる」という記事を読んだことがあります。

自生地のニリンソウをじっくり眺めてもそれらしきものは見当たらなかったもので、その時は「まあ、よくこんな観察をする人がいるものだ。研究者って、よっぽど暇（ひま）人なのか」と感心して、それ以降は関心も持ってきませんでした。

ところが、活動引退後の今年4/8、たまには身体を動かさないとと思って散歩に出かけた「清水町みどりの公園」の花壇で咲いているニリンソウ群

落の中に、白い萼片（がくへん）を食べている虫がいるのではないですか。ほかの場所では穴だらけ。

ネットを調べると、アマチュアのご夫婦がとても詳しい植物観察報告をしているサイトに出くわしました（「HiroKen花さんぽ」）。そこで、この虫のことも紹介されていました。ルリマルノミハムシはハムシ科ノミハムシ亜科の昆虫。ニリンソウが好きだということは間違いなさそうなのですが、でも、これだけでは、この虫が種子を運んでいるのかどうかは分かりません。ほかのいろいろな植物にもつくようです。

3/10の保護活動で身体が動かなくなって、それ以来今年のニリンソウ月間行事は全部休ませていただきました。1か月ぐらい、なにもしないでポケーっと暮らしていると、身体は軽くなってきて外歩きができるようになりました。

日暮台公園と見次公園のニリンソウ

4/14には前野町エコポリスセンターでの環境観察員説明会に出かけていきました。

その道すがら（1）日暮台公園と（2）見次公園のニリンソウの状況を実際に見てきました。

（1）日暮台公園のニリンソウ

開花の峠を過ぎていましたが、展葉の状況から見て、数年前に実地に確認した時よりは生育域が拡大していました。でも、かなり様子が違っていました。

①円形にロープ柵で囲まれた部分では、かつてある団体が「自主管理」していたようですが、数年前にはこの柵内の中央部分にニリンソウの群落がありました。最近手入れをしていないのか区の公園管理者による草刈りが行われているのかよくわかりませんが、中央の群落は縮減していました、その代わりロープ柵の四方の周囲に群落が広がっていました（写真下左）。

②このロープ柵の北側、崖線に沿った園路では、数年前に比べて新しい群落が生まれている一方、元の群落はここでも消滅または衰退していました（同右）。



③ニリンソウが元気に展葉している場所の共通の特徴は、擬木の柱の根本や横の柵木の直下であること、または擬木の杭の列に挟まれた狭い空間であることです。つまり、

- ・ 人による踏圧がかかりにくいポイントであり、
- ・ 除草作業の際に刈払い機の羽が当たらずに刈り残しされ、かつ、
- ・ 擬木柵が影を落としていて、日光が直射している場所よりも、地面の乾燥が防がれている場所です。

少しだけ工夫をしてきちんと管理すれば生きていけるのですが、行政が管理する公園での季節を選ばずに行われる全草完全除伐方式の普通の管理法では生きていけないわけです。

（2）見次公園のニリンソウ

かなり以前から「見次公園にもニリンソウがある」という話は聞いていて、毎年、階段や園路から北側斜面を観察してきましたが発見できていませんでした。今年は、思わぬ場所で生育を確認しました。

手前に目印らしきものが立ててあるので、たぶん、これがそうだと思います。（右の写真）

植栽されたオオムラサキの下にひっそりと、誰にも気づかれずに生きています。オオムラサキの茂みの中で直射日光が当たらないこと、北側の凸版印刷から排出される（と言われている）地下水の水脈の近くなので土壤の水分には恵まれているのでしょうか。もともと自生していたものと思われます。

それにしても、どうしてもっと丁寧な管理をしないのか不思議でなりません。

